

## 令和 7 年度主要事業実施状況

主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等											
<p><b>(1) 資料・情報</b></p> <p>(ア) 長野県唯一の県立図書館の責務として、信州に関する地域資料を網羅的に「収集」し、次世代に確実に継承する「保存」と、資料を最大限活かす「利用」を戦略的にバランスよく行うため、県内外の関係機関との役割分担をし、蔵書構築をすすめる。</p> <p>(イ) 利用者自身が課題を見つけ、調べ、解決する力を身に付けることを促す調査・相談（レファレンス）を実施する。国立国会図書館が運営する「レファレンス協同データベース」に事例を登録することで、調べ方を発信していく。</p> <p>(ウ) 情報アクセス環境の地域間格差是正のため、相互貸借送料支援および全県向けインターネット貸出を実施し、普及させる。</p>	<p>(ア) 令和4年8月から開始した、県立長野図書館単独の電子書籍閲覧サービス及び「市町村と県による協働電子図書館」（デジとしよ信州）について、資料を更新し引き続きサービスを提供した。</p> <p>地域資料については、これまでリストによるアナログ的な登録・管理を行っていた『国土地理院地形図』について、業務の効率化及び利用者サービスの向上を図るため電算登録を行うこととし、請求記号付与の基準作成と「入力・装備マニュアル」の一部改正を行い、1,079枚の受入登録を進めた。</p> <p>今後、利用者が探しやすいように、WebOPACからの検索方法などの案内をHPに掲載する予定。</p> <p>(イ) 令和7年度の調査相談件数は以下のとおり。引き続き調べ方を伝える丁寧な調査・相談に努めたい。</p> <p>【実績】</p> <p>令和7年度 8,477件 件（R8.1月末） 令和6年度 6,012件</p> <p>(ウ) 令和7年度の相互貸借及びインターネット貸出の状況は以下のとおり。</p> <p>県民がどこからでも当館の資料を利用できるよう、ホームページにおける案内をわかりやすくするほか、様々な機会や媒体を活用して周知を図っていく。</p> <p>【実績】（R8.1月末）</p> <table border="1" data-bbox="1249 1230 1816 1414"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">相互貸借</th> </tr> <tr> <th>貸出冊数</th> <th>借受冊数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和7年度</td> <td>2,842</td> <td>127</td> </tr> <tr> <td>令和6年度</td> <td>2,896</td> <td>346</td> </tr> </tbody> </table>		相互貸借		貸出冊数	借受冊数	令和7年度	2,842	127	令和6年度	2,896	346
	相互貸借											
	貸出冊数	借受冊数										
令和7年度	2,842	127										
令和6年度	2,896	346										

主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等
<p>(工) 収集した資料を県民が利用し、さらなる資料を「創造」していく支援を行う。</p>  <p>【これからの図書館フォーラム第1回に合わせた資料展示】</p> <p>(オ) 読書バリアフリーに資するサービスについて、分かりやすい広報を行う。</p>	<p>(工) 戦後80年特別企画展示として、日中戦争以降、言論や思想の統制が強まっていく中で展開された「国民読書運動」と当館との関わりを示す、当館所蔵図書、文書類による「読ませなかったものと読ませたかったもの - 戦時下における『読書指導』を通して『知る自由』を考える」を実施（7月26日から9月25日まで）。関連して9月7日に早稲田大学和田敦彦教授による講演会『『読者の歴史』から『知る自由』を考える』（令和8年度「これからの図書館フォーラム」第2回）を開催。</p> <p>・「信州・学び創造ラボ」で開催される企画にあわせ、関連するテーマの所蔵資料を展示し、参加者の希望に応じて学びを深められる機会を提供した。</p> <p>(オ) 1階児童図書室及び2階一般図書室に大活字図書、LLブック、拡大読書器等を配置した「りんごの棚」を設置している。</p> <p>6月29日(日)に読書バリアフリー研修会「読書バリアフリーって何だろう？」を開催し、34名の参加があった。また、3月28日(土)に文部科学省主催の「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」に読書バリアフリー展示で協力予定。</p> <p>サビエ図書館、国立国会図書館「みなサーチ」などを活用した直接サービスについては、検討段階。</p>
<p><b>(2) 空間の整備と、それに伴う多様な活動の推進</b></p> <p>(ア) 「共知・共創」をコンセプトとする「信州・学び創造ラボ」において、県民の主体的活動と学びのコミュニティづくりを促し、これからの公共空間や新たな学びのモデル構築を図る。</p> <p>(イ) 試行錯誤ができる「学びのツール」として、「モノコトベース」をさらに活用し、コミュニティや関係機関とも協働しながら、新たな学びの仕組みを拡げていく。</p> <p>(ウ) 実空間と情報空間を融合させ、ICT を利活用したコミュニケーションの場を企画・提供する。</p>	<p>(ア) (イ) (ウ)</p> <p>「信州・学び創造ラボ」を活用したコミュニティづくりの一環として、下記企画を実施した。</p> <p><b>実施した企画（予定を含む）</b></p> <p>《ラボカフェ》</p> <p>#26 ラボで何する？久しぶりにみんなで話そう（R7.12.20）参加者：9名</p> <p>#27 アナログゲームで遊びませんか？（R8.1.23）参加者：5名</p> <p>#28 木製ボードゲームで遊んでみる会（R8.2.28）</p>

## 主要事業計画



【わかさとクエスト】



【モノコトフェス#2】



【モノコトフェスでのボードゲーム体験会】

(工) 図書館を、「新しい出会いと発見が促される場」と位置付け、1階児童図書室、2階一般図書室における新しい発見・学びのプログラムを展開する。

## 実施状況及び成果、今後の課題等

### 《モノコトベース》

オープンデー（11回）（3月に1回を予定）

オリジナルライブラリーカードワークショップ（21回）（3月に2回を予定）

### 《わかさとクエスト》（令和7年5月4日開催）

若里公園近隣に所在する信州大学、ホクト文化ホール、テレビ信州、長野シルバー人材センター（若里公園指定管理者）、県立長野図書館、「こどものモール」などが連携し、ゴールデンウィーク中に「近場で見つける遊びと文化の宝探し」をテーマに、各機関の特徴を活かした様々な催しを実施。当館は、他館招聘イベントの会場として「信州・学び創造ラボ」を提供したほか、バックヤードツアー、「図書館探検大作戦」、公園内謎解きゲームのゴール場所として景品提供等を実施。（景品交換数325）

令和8年度は5月2日に開催予定。

### 《モノコトフェス》（令和7年12月14日開催）

モノコトベース発のコミュニティが主体となった実行委員会により開催。

ハイテクから手作り品まで、幅広いジャンルの自作品の展示・発表を実施。

参加人数は約180人。

当館はウッドチャーム作成、ボードゲーム体験コーナーを実施。

「わかさとクエスト」「モノコトフェス」とも、従来の「図書館＝読書の場」というイメージを持つ来館者層以外の来館を呼び込み、再度の来館にもつながっている。

(工) 児童・YA世代の学びの場としての機能の充実を行った。

- ・中学生の職場体験や高校の授業における「探究学習」で利用において、図書館の利用案内やレファレンス等で、探している情報を手渡すだけでなく、図書館の使い方や図書にとらわれない情報の調べ方を伝えることができた。
- ・児童図書室設置のアナログゲーム（積み木・ボードゲーム・カードゲーム等）を

## 主要事業計画



【2階：一般図書室展示の一部】



【1階：児童図書室展示の一部】

## 実施状況及び成果、今後の課題等

充実することに加え、座って気軽にゲームを試せるようにパレットを設置するなど、様々な体験や交流が生まれる環境の整備を行った。

・夏休み期間には毎年恒例の「ナツとしよ」として、子どもたちが館内を巡って謎を解くプログラムやバックヤードツアーを実施した。

図書室内展示は、利用者の「知りたい」を引き出し、新たな世界の再発見につながることを意識して、多様な問いかけを埋め込んだり、標本や天秤といった本以外の道具を合わせて展示するなど工夫した。

・これまで児童図書室内での利用に限られていたアナログゲーム類について、「信州・学び創造ラボ」など館内の他フロアでの利用や、県内の市町村立図書館・学校図書館でも活用していただけるよう、電算登録を行ったほか、相互貸借に対応できる体制を整備している。

この「体験の貸出」の取組は、図書館における情報資源収集・提供の選択肢を増やし、利用者が情報と出会う可能性を増やすものと位置付けており、今後市町村立図書館等にも周知を進め、実施を検討する館に対し相談対応や相互貸借等の支援を行っていく。

主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等
<p><b>(3) 各県域・分野における県民の学びを支える人材育成支援</b></p> <p>(ア) 司書としての役割を果たす人材の育成として、初任・中堅等向けの研修や、共通する課題に取り組み、各館の運営に活かす「これからの公共図書館研究会」を開催する。</p> <p>(イ) 広域単位での公共図書館・学校図書館に対する研修会の開催支援（企画相談、講師派遣・紹介等）や、各地域の会議等への出席を通じて、各地域の活動を後押</p>	<p>(ア) 図書館職員の中堅研修に位置づける「これからの公共図書館研究会」について、前年同様 3 部門を設け、県内公共図書館関係者が計 5 回のオンライン研究会を開催している。</p> <p>現場での課題を持ち寄り、研究・検討し、情報交換を行うフラットな場として定着している。オンライン開催方式により、フレキシブルで地域・立場を問わない積極的な参加が実現している。(実施状況は令和 8 年 2 月末時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の方向性検討 今年度の開催なし</li> <li>・学びのプログラム・学校連携 2 回（3 月に 1 回予定）</li> <li>・資料活用・レファレンス 2 回（3 月に 1 回予定）</li> <li>・初任者研修（講義）を令和元年以来となる当館での集合形式で実施。</li> <li>・初任者研修（レファレンス実習）は、会場を提供していただいた図書館を含めた県内 4 地区で開催した。（諏訪市、塩尻市、佐久穂町、県立長野）</li> <li>・林業総合センターが主催する「林業士入門講座」と今年度も連携し、講座の一部を担当した。（平成 29 年度以降継続して実施）</li> </ul> <p>(イ) 北信、中信地区の公共図書館・公民館図書室等の連絡協議会にオブザーバとして参加。また、「長野県政 出前講座」を活用した、中高飯水図書館協会による小中学校の図書館教育主任と図書館司書（事務職員）を対象にした研修会で情報検索の方法に関する講師を担当。</p> <p>(ウ) 「これからの公共図書館フォーラム」の新たな展開として、県内外、図書館界内外に開かれたテーマを計画、実施。会場とオンラインを組み合わせたハイブリッド方式で開催した。</p>

## 主要事業計画

(ウ) 広く社会教育に関わる分野や全国の取組を俯瞰したテーマ設定のもと、県民の学びを創発する機会として「信州発・これからの図書館フォーラム」等を開催する。



【信州発・これからの図書館フォーラム第1回】

(エ) 信州における価値ある地域資源の共有化をはかり、新たな知識化・発信を通して、地域住民の学びを豊かにし、地域創生につなげていくことを目的とした「信州知の連携フォーラム」を一層推進する。

## 実施状況及び成果、今後の課題等

### 開催実績

第1回 「地域の読書環境をもっと豊かに！ — 読者 × 書店 × 図書館 × ∞」 (5月14日)

第2回 「『読者の歴史』から『知る自由』を考える」(戦後80年特別企画展示関連講演会) (再掲 9月7日)

第3回 「子どもの読書活動推進の担い手と可能性を考える」  
(2月22日)

(エ) 「信州・知の連携フォーラム」第9回を開催(開催当番館:長野県立歴史館)

【テーマ】『感性を育てる試み ~学校教育との連携~』

社会全体でデジタル化が進行するなかで、実際の展示物を活用して学校教育と連携し、感性を育てる活動を行っている美術館・博物館による実施報告が行われた。

主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等
<p><b>(4)「長野県 eLibrary 計画」によるデジタル化・ネットワーク化の推進</b></p> <p>(ア) 図書館機能の高度化の方策として、県内各種機関所蔵情報のデジタル化・公開支援、手続き・サービスのデジタル化、空間や場のネットワーク化、これらを融合し使いこなす学びのネットワーク化を推進する。</p> <p>(イ) 自ら学び、調べるためのコンテンツとして、地域資料（郷土資料）を優先的に電子化し、「信州ナレッジスクエア」のコンテンツを拡充するとともに、長野県で生産される知的生産物を収集・保存・発信できる仕組みを提供する。</p>	<p>(ア) 図書館業務システム及び信州ナレッジスクエア、ホームページについて、リース契約満了とWindows10のサポート切れに伴う端末等入替に合わせて令和7年11月1日に更新を行った。この更新による主な変更点は下記のとおり。</p> <p>「図書館業務システム」クラウドサービスへの移行</p> <p>「信州ナレッジスクエア（信州デジタルコモンズ）」DOI導入に向けた改修</p> <p>・「信州デジタルコモンズ」のコンテンツに持続的なアクセスを保障するための仕組みであるDOI（Digital Object Identifier）を登録するため、日本においてその登録及び管理を行う登録機関である「ジャパンリンクセンター」に正会員として入会した。今後、「信州デジタルコモンズ」のコンテンツに対するDOI登録を進めていく。</p> <p>(イ) 令和5年度から開始した所蔵資料デジタル化事業によりデジタル化した郷土資料のうち著作権満了の確認ができた226点について「信州デジタルコモンズ」で公開した。令和6年度にデジタル化した150点についても、現在、著作権調査及び公開準備を進めている。また令和7年度も、大正期から昭和戦前期までの郷土資料150点のデジタル化を外部委託により実施した。引き続きオンラインで利用できる情報資源の充実に取組んでいく。</p> <p>・新たに駒ヶ根市立東伊那公民館が「信州デジタルコモンズ」の登録機関となった。区誌編さんに向けたコンテンツの登録作業にあたっては、当館職員もサポートを行っている。</p> <p>・当館職員が講師となり、県内図書館職員や学校司書等を対象とした「デジタルアーカイブ研修」を県立長野図書館と池田町図書館を会場に2回実施した（長野県図書館協会ステップアップ研修）。デジタルアーカイブに関する座学や「信州デジタルコモンズ」に資料を登録するための実習、意見交換等を通じて、各館の地域資料を保存・活用するための可能性について考える機会となった。</p> <p>・第1回：2月4日（水）13:30～16:30 県立長野図書館</p>

## 主要事業計画

## 実施状況及び成果、今後の課題等

(ウ) 市町村と県による協働電子図書館「デジとしよ信州」及び「県立長野図書館電子書籍サービス」によって、読書バリアフリー、学校と連携した活用、地域史料（郷土資料）の電子化・公開を進める。

(ウ) 市町村と県による協働電子図書館「デジとしよ信州」及び「県立長野図書館電子書籍サービス」を継続して提供した。



【市町村と県による協働電子図書館  
「デジとしよ信州」】



【県立長野図書館電子書籍サービス】

参加人数10名

・第2回：2月13日（金）13:30～16:00 池田町交流センターかえで  
参加人数28名

信州デジタルコモンズコンテンツ数（R8.1月末時点）

インターネットで閲覧可能なコンテンツ数 5,510点

二次利用可能なコンテンツ数 4,750点

・「デジとしよ信州」運営状況（R8.1月末時点）

【利用登録者数】36,126名（全ての市町村に利用登録者がいる）

【蔵書数】計30,586冊(R8.1月末時点) うち、購入(有償) コンテンツ計  
12,695冊(R8.1月末時点)

【貸出数】329,361冊

年代別利用状況：10代(39%)、50代(14%)、40代(13%)

【学校連携】学級・学年単位等で登録した県立高等学校 6校

・「県立長野図書館電子書籍サービス」運営状況（令和8年1月末時点）

【蔵書数】2,399冊

【閲覧数】4,781回（1冊あたり閲覧平均 2.0.6回）

# 「長野県 eLibrary 計画」概念図

